

南短と南山での約20年間の有難い関わり

南山大学人文学部心理人間学科 中村和彦

私は1994年度に南山短期大学人間関係科に採用されました。当時の人間関係科および人間関係研究センターには、Tグループに携わる教員として、星野欣生先生、山口真人先生、津村俊充先生、中野清先生、非常勤として中堀仁四郎先生がいらっしやって、私は29歳でスタッフの一員となることのできる幸運を得ました。

ご逝去された津村俊充先生は、私からは13歳先輩で、2014年度3月に南山大学を退職されたので、21年間、南山短期大学と南山大学の同僚（後輩）としてお世話になりました。そして、2011年11月にご逝去された山口真人先生は、私からは18歳先輩で、山口先生とは18年間、同僚（後輩）としてお世話になりました。両先輩と約20年間にわたり、南山短期大学と南山大学の授業でチーム・ティーチングをしながら協働でき、合宿をともに創り、いろいろと教えてもらったこと、とても有難く、幸運だったと感じています。

お二人からはたくさんのフィードバックや励ましをいただきました。いろいろとある中で、私が若かりし頃のエピソードを1つずつ紹介させてください。

私はTグループが苦手でした（今も苦手です）。1～2年目の頃、グループの中で自分が働きかけをして、それがよくない影響となることが怖くて、トレーナーとして発言ができない時期がありました。そんな時、津村先生が「中村さん、ホームランをねらわずに、バントヒットを重ねればいいんだよ。小さく小さく、コツコツと、力まずに」と、あの笑顔でやさしく声かけをしてくれました。優しく寄り添ってもらった感覚を今でも忘れません。

世間には、私のことを「津村先生の弟子」と言う人がいます。津村先生は決して、彼が教える先輩、私が教わる後輩、という関係にはしませんでした。津村先生は常に学ぶ姿勢を大事にして、私のことを切磋琢磨する同僚として関わってくれました。

山口先生とも、特に合宿（Tグループやトレーナー・トレーニング）で多くの関わりができました。トレーナー・トレーニングの合宿で、二人でワイワイ言いながら「5人のトレーナー」という実習を創った時の楽しさは決して忘れません。山口先生からもたくさんのフィードバックや励ましをもらいましたが、その中の最も私が影響を受けた1つは、「中村さんは学生に教えたがるねえ、学生は教えなくても自分で学んでいくよ」というフィードバックです。学習者中心の教育観を貫いた山口先生らしい言葉でした。

津村先生を偲び、ご冥福をお祈りすることと同時に、山口先生を偲ぶ言葉を書くことができていなかったのが、この場で両先生を偲ぶ想いを言葉にさせていただきました。南山短期大学から南山大学に至るまでの約20年間、同僚であり先輩であった両先生に出会うことができ、関わりことができ、さまざまな教えをいただくとともに、切磋琢磨できたことに感謝しています。